



Title	比較構文における等位構造について
Author(s)	吉本, 真由美
Citation	待兼山論叢. 文学篇. 2008, 42, p. 51-65
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/9438
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

比較構文における等位構造について

吉 本 真 由 美

0. はじめに

本稿では、英語の比較構文を扱い、特に (1) のように *than* 以下に節が現れるようなタイプの比較構文について、その構造を明らかにしたい。

- (1) a. John invited more men than Bill invited.
b. John invited more men than Bill invited women.

(1a)では John の招待した男性の数と Bill の招待した男性の数の比較、(1b)では John の招待した男性の数と Bill の招待した女性の数の比較が行われている。このように、*than* 以下に節を取る場合、比較対象が同種のものであるものと、異種のものであるものの2種類が存在する。本稿では、前者のようなタイプの比較構文を Ordinary Comparatives (以下 OC)、後者のようなタイプの比較構文を Subcomparatives (以下 SC) とし、これらの比較節 (*than* 以下の節) と主節との関係について考察する。

本稿の構成は以下の通りである。まず、1 節で *than* が等位接続詞であることを確認し、2 節では比較節内の構造を、3 節で比較節と主節とがどのように等位されているかを提案する。そして、この提案された等位構造から導かれる予測が正しいことを示す。4 節は SC の主節の構造を概観する。5 節は結論である。

1. 等位接続詞としての *than*

比較構文に現れる *than* (もしくは *as*) の正体は何物なのか。先行研究では、補文標識であるという見方、前置詞であるという見方など、その主

張は分かれるところであるが、以下の例を観察すると、*than/as* が等位接続詞である、つまり主節と比較節は等位構造にある、ということが分かる。

- (2) John knows more Romance languages than Pete Germanic languages.

- (3) a. Which actress_i do as many women hate *t_i* as men like *t_i*?
 b. *Which actress_i do as many women hate *t_i* as men like Sue?

(Corver (1993: 777))

(2) の比較節では、*than Pete knows Germanic languages* の *knows* が空所になっている。このように空所化を認めるのは等位構造の特徴であることが知られている。

- (4) a. Either Sam plays the sousaphone or Jekyll ~~plays~~ the heckephone.
 b. *Sam played tuba whenever Max ~~played~~ sax.

(Jackendoff (1971: 22))

(4a) では *plays* で、(4b) では *played* で空所化がおこっているが、等位接続詞 *or* を用いた場合は文法的であるのに対し、従属接続詞 *whenever* を用いた場合は非文になる。

また、(3a) では主節と比較節に存在する *t_i* の位置から2箇所同時に *wh* 句が移動している。一方 (3b) では主節のみから移動が起こっている。(3a) は文法的、(3b) は非文であるが、こういった現象は等位構造に特有のものである。

- (5) a. It's potatoes_i that John likes *t_i* and Mary hates *t_i*.
 b. *It's potatoes_i that John likes *t_i* and Mary hate onions.

(5a) の移動は across-the-board movement (ATB 移動) と呼ばれる。(5b) のようにそれが適用されずに片方の等位項のみから抜き出しが起これば、等位構造制約違反として非文になる。(3) に見られるように、比較構文でも ATB 移動が適用されるとすると、比較節と主節は等位構造を成している、つまり *than/as* は等位接続詞であるということが分かる。

2. 比較節内の構造について

0 節で述べた通り、比較構文には OC (cf. (1a)) と SC (cf. (1b)) の 2 種類の構文が存在する。本節では、これら 2 種類の比較構文の比較節内の構造について詳しく観察したい。

まず、(1) のような比較構文の比較節では演算子移動が起きていると考えられる。その証拠に、(6) に見られるように OC、SC の比較節に複合名詞句や *wh* 節などの「島」が現れると非文になる。「島」の制約に従うのは *wh* 疑問文など演算子移動を含む構文の特徴である。

- (6) a. *Michael has more scoring titles than Dennis is a guy who has.
- b. *Michael has more scoring titles than Dennis is a guy who has tattoos.
- (7) a. *The shapes were longer than I wondered whether they would be.
- b. *The shapes were longer than I wondered whether they would be thick.

(Kennedy (2002: 558))

このように、OC、SC は演算子移動が起きているという点で共通していると考えられるが、相違点も見られる。(8) は寄生空所 (*e* で示される)

を含む例、(9) は補文標識 *that* が文法性に関わる例である。

- (8) a. I threw away more books than I filed ϕ without reading e .
 b. *I threw away more books than I filed ϕ magazines without reading e abstracts.
- (9) a. Even fewer books were published than we expected (*that) would be.
 b. Even fewer books were published than we expected (that) magazines would be.

(Grimshaw (1987:665))

それぞれ (a) の文が OC、(b) の文が SC である。OC の比較節では寄生空所を認めるが、SC ではそれが認められない。また、主語に生じる要素を比較する (9) のような文において、OC の比較節では埋め込み文 (expected の補文) に *that* が現れると非文になるが、SC では *that* が生じても非文にならない。ここでは詳しい議論は省略するが、(6) – (9) のデータから、OC と SC の比較節では演算子が移動しており、かつ演算子の移動の仕方が異なっていることが示唆される (ただし、比較節内に顕在的に *wh* 語が現れることは標準的な英語においてはないので、空演算子が移動していると考ええる。¹⁾ 具体的には、吉本 (2007) に従って OC、SC の比較節がそれぞれ (10)、(11) のように派生されるものと考ええる。²⁾

- (10) a. John invited more men than Bill invited.
 b. ... [_{thanP} than [CP [DP **d-many men**] C⁰ [_{DEG, EPP}] [TP Bill T⁰ [_{EPP}] [VP invited [DP **d-many men**]]]
- (11) a. John invited more men than Bill invited women.
 b. ... [_{thanP} than [CP [_{DegP} **d-many**] C⁰ [_{DEG, EPP}] [TP Bill

T⁰ [EPP] [VP [DegP **d-many**] [VP invited [DP women]]]

d-many とは、数の degree を示す。また、太字はそれが音声をもたない要素であることを示す。まず、OC の比較節では、(10a) に見られるように、音声を持たない [DP d-many men] が invited の補部位置から移動している。一方、SC の比較節では、(10b) に見られるように、音声を持たない [DegP d-many] が VP 付加位置から移動している。³⁾ このように、移動する要素、移動の元位置が OC と SC とで異なると考えると、(8)、(9) に見られた両者の相違点が捉えられるため、(10)、(11) に示した比較節の派生方法は妥当であると考えられる。まず、(8a) では DP が移動しているのに対し、(8b) では DegP が移動しており、寄生空所が認められるのは DP が移動した場合のみという特徴を考えると、(8) における文法性は捉えられる。また、(9a) では主語位置から DP が移動しているため、補文の主要部に that が顕在的に現れた場合は that 痕跡効果に抵触するのに対し、(9b) では VP 付加位置から DegP が移動しているため、that 痕跡効果とは関わりがなく、that が生じてもしなくても文法性は変わらない。

このように、(10) と (11) のような移動を設定すると、OC と SC の諸特徴が捉えられるため、この仮説が正しいことが分かる。そこで、OC では DP が移動することによって自由関係詞節の構造を成していると提案したい。自由関係詞節とは、(12) のように、先行詞を持たない関係詞である。

(12) I will eat [DP what you cook]

(10a) の OC の比較節の構造は、厳密に言うと、(13) に見られるように自由関係詞節として DP を成す。なお、この自由関係詞節の構造は、関係詞節 CP が音声的に空の名詞的要素を修飾するという、(14) のような構造を元に行っている (cf. Groos and Riemsdijk (1981) , Harbert (1983))。

- (13) … [_{thanP} *than* [_{DP} ϕ [_{CP} [_{DP} **d-many men**] _C⁰ [_{DEG, EPP}]] [_{TP}
 Bill _T⁰ [_{EPP}] [_{VP} *invited* [_{DP} **d-many men**]]]]
- (14) [_{NP} *PRO* [_{CP} *wh-phrase_i* *t_i*]]

一方、SC の比較節の構造は DegP が副詞的に VP 付加位置に生じて移動するため、全体としては CP を成す。これは (15) の *wh* 疑問文と同様である。

- (15) [_{CP} How well *does she play the piano*]?

まとめると、以下のようになる。

- (16) a. OC の比較節では、DP が空演算子として移動し、自由関係詞節 (= DP) を成す。
- b. SC の比較節では、DegP が空演算子として移動し、副詞的な *wh* 語が移動する *wh* 疑問文の構造 (= CP) を成す。

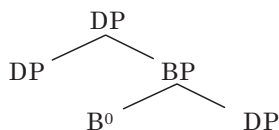
次節では、(16) で提案した比較節内の派生方法とその構造をもとに、比較構文全体の構造を探る。

3. 主節と比較節における等位構造について

2 節で提案したように、OC と SC の比較節内の構造がそれぞれ DP、CP を形成するということと、1 節で確認したように、*than* が等位接続詞であるということとを考慮すると、OC の等位構造は DP を結ぶものであり、SC の等位構造は CP を結ぶものであると言える。具体的に OC と SC の等位構造を考えるにあたって、まず、Munn (1993) で提案される等位構造を確認したい。Munn (1993) では、*and* や *or* などのブール演算子が形成する BP (Boolean Phrase) が、(17) のように付加 (Chomsky adjunction) し、

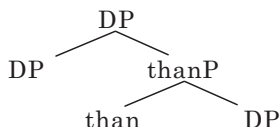
全体の構造としてははじめの等位項の範疇になる、と考えられている。

(17)

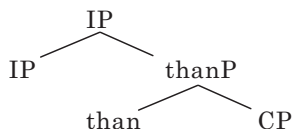


この構造を念頭に置き、OC と SC の比較節の構造を考慮に入れると、OC/SC の主節と比較節の等位構造は (18a-b) に示されるような構造になる。

(18) a. OC の主節と比較節を結ぶ等位構造



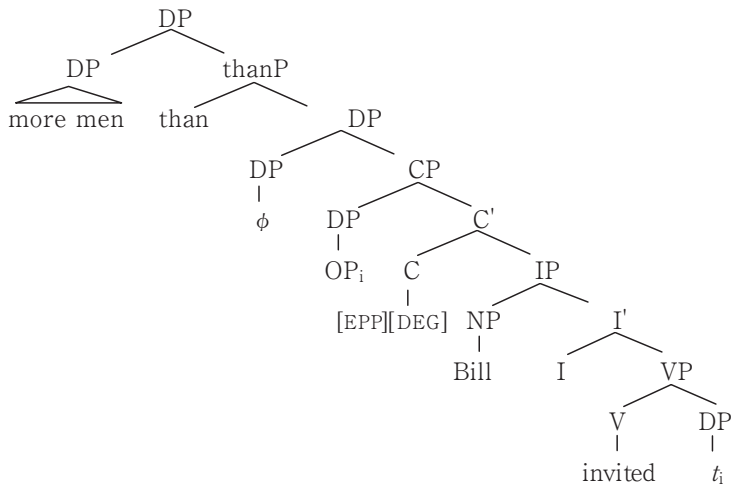
b. SC の主節と比較節を結ぶ等位構造



まず、(18a) では 2 番目の等位項となる比較節の DP に *than* を主要部とする句（ここでは *thanP* とする）が投射し、これが 1 つ目の等位項に付加している。このため、1 つ目の等位項は 2 つ目と同様、DP ということになる。次に (18b) では 2 番目の等位項となる比較節の CP に *than* を主要部とする *thanP* が投射し、1 つ目の等位項に付加して全体としては文を形成する。具体的に (1a)、(1b) (= (19a)、(20a) として再掲する) を用いて図示すると、その構造は (19)、(20) のようになる。OP は移動する要素、空演算子を示す。

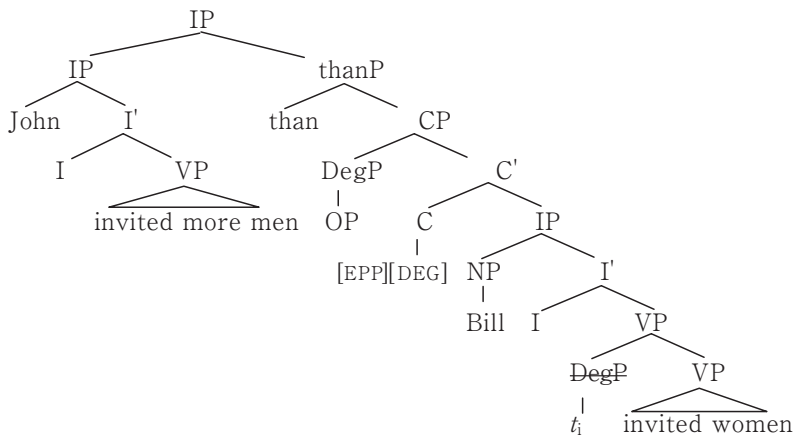
(19) a. John invited more men than Bill invited.

b.



(20) a. John invited more men than Bill invited women.

b.



このように、OC と SC では比較節の構造が異なるため、比較節と主節の要素を結ぶ等位構造も両者の間では異なる。そこで、このような構造を立

と、以下のような予測が得られる。(19b) の OC では [_{DP} more men] と thanP が構成素を成す一方、(20b) の SC では [_{DP} more men] と thanP が構成素を成さない、ということである。

この予測が正しいことは、以下の Hasegawa (1987) に指摘される現象を観察すると明らかである。

- (21) a. John invited more men than Bill invited.
 - b. More men than Bill invited were invited by John.
 - c. How many more men than Bill invited did John invite?
- (Hasegawa (1987:127))

(21a) の OC では (21b) のように受動化によって [more men than Bill invited] が主語位置へ移動できる。また、(21c) は疑問文の例であるが、これも同じく [how many more men than Bill invited] が移動できる。これらのデータは more men と比較節とが1つの構成素を成していることを指している。すなわち、(19) で提案した構造から立てられる予測が正しいことが分かる。

一方 (22a) のような SC では、(21) に見られた移動操作を適用することができない。まず、(22b) のように [more men than Bill invited women] に受動化を起こすと非文になる。また、(22c) のように [how many men than Bill invited women] に wh 移動を適用した文も非文である。これらのデータは more men と SC の比較節が1つの構成素をなさないということを示している。すなわち、SC に関しても、(20) で提案された構造から立てられる予測が正しいと言える。

- (22) a. John invited more men than Bill invited women.
- b. *More men than Bill invited women were invited by John.

- c. *How many more men than Bill invited women did John invite?

(Hasegawa (1987:127))

このように、OC と SC に見られる等位構造は (19b)、(20b) の構造を成しているということが構成素の構造から証拠づけられた。2 節において提案した、OC と SC における比較節の構造や派生過程を元にすると、比較構文全体の構造が浮き彫りになり、その等位構造から導かれる構成素の構造は、移動操作等に関する事実を正しく予測することが分かった。

4. SC の主節内の構造について

結論に入る前に、SC の主節について検討したい。先行研究で指摘されているように、SC に現れる形容詞としての DegP は副詞的な役割を持つ。

- (23) a. He makes a better soufflé than he does an omelet.
 b. They make better police dogs than they make pets.
 c. He makes a more successful businessman than he does a linguist.

(Pinkham (1982:35))

- (24) a. *I saw better movies than he did plays.
 b. *He has a more expensive car than he has a house.
 c. *She bought a prettier dress than she bought a shirt.

(Pinkham (1982:32))

Pinkham (1982) によると、(23) のような文法的な SC は (25) のように形容詞を副詞に置きかえることができ、(24) のような容認されない SC は (26) に見られるように副詞への言い換えができない。

- (25) a. He makes a soufflé better than he makes an omelet.
 b. They make police dogs better than they make pets.
 c. He makes a businessman more successfully than he does a linguist.
- (26) a. #I saw movies better than he did plays.
 b. #He has a car in a more expensive way than he has a house.
 c. #She bought a dress more prettily than she bought a shirt.

(Pinkham (1982: 35))

形容詞が副詞的な役割を持つという点で、似たような現象がある。

- (27) a. An occasional sailor strolled by.
 b. The storm was punctuated by a sporadic crash of thunder.
- (28) a. Occasionally a sailor strolled by.
 b. Sporadically, the storm was punctuated by a crash of thunder.

(Stump (1981: 222))

(27) の例では、(28) のように、形容詞が副詞的に解釈される。このように、表層構造上では名詞を修飾する形容詞として生じるが、解釈としては副詞的に振舞うことから、形容詞が何らかの形で副詞的に VP を修飾できるような構造になるよう、LF 移動が起こっているのではないかと考えられている。

こういった類似した現象を考慮すると、SC の主節でも形容詞が何らかの形で VP を修飾できるような構造になるよう、LF 移動が起こっているのではないかという可能性が伺える。具体的には、DegP が形容詞の位置から VP 付加の位置などに LF 移動することが挙げられるが、これに関す

る詳細なメカニズムは今後の課題としたい。

5. 結論

本稿では、まず、*than/as* が等位接続詞であり、主節と比較節が等位構造を成していることを確認し、2種類の比較構文の OC と SC に関して、その比較節の構造と派生方法を提案した。具体的には、両者の統語的振る舞いから、OC では DP に相当する空演算子が項位置から移動し、*than* 以下で DP の構造を成すこと、SC では DegP に相当する空演算子が VP 付加位置から移動し、*than* 以下で CP の構造をなすことを提案した。これをもとに比較構文全体の構造として、どのような要素が等位接続されているのかを探り、OC では DP が等位接続され、SC では CP が等位接続されていることを提案、そしてその構造が比較構文に移動操作を適用させたデータの文法性を正しく予測することを確認した。

また、今後の展望として、主節内における LF 移動についても言及した。この他、*than/as* 以下に節ではなく句が現れる比較構文についても探っていく必要があるだろう。

注

- 1) 比較節に *what* が顕在的に現れる方言も存在する。
 - (i) a. We own more books than *what* they do.
 - b. We own more books than *what* we own magazines.

(Izvorski (1995:211))
- 2) (10b) は (13) において一部構造を改変する。
- 3) C^0 に存在すると仮定される [EPP] 素性が、[DEG] 素性と一致するような要素を自らの指定部に要求して、[DEG] 素性をもつ [_{DP} d-many men] や [_{DegP} d-many] が移動すると考える。

参考文献

Bresnan, Joan (1973) "Syntax of the Comparative Clause Construction in

- English," *Linguistic Inquiry* 4, 275-343.
- Bresnan, Joan (1975) "Comparative Deletion and Constraints on Transformation," *Linguistic Analysis* 1, 25-74.
- Chomsky, Noam (1977) "On Wh-Movement," in Peter W. Culicover, Thomas Wasow, and Adrian Akmajian (eds.), *Formal Syntax*, 71-132, Academic Press, New York.
- Chomsky, Noam (2001) "Derivation by Phase," in Michael Kenstowicz (ed.), *Ken Hale: A Life in Language*, 1-52, MIT Press, Cambridge, MA.
- Chomsky, Noam (2004) "Beyond Explanatory Adequacy," in Adriana Belletti (ed.), *Structures and Beyond: The Cartography of Syntactic Structures Vol 3*, 104-131, Oxford University Press, Oxford.
- Corver, Norbert (1993) "A Note on Subcomparatives," *Linguistic Inquiry* 24, 773-781.
- Engdahl, Elisabet (1983) "Parasitic Gaps," *Linguistics and Philosophy* 6, 5-34.
- Grimshaw, Jane (1987) "Subdeletion," *Linguistic Inquiry* 18, 659-669.
- Groos, Anneke and Henk van Riemsdijk (1981) "The Matching Effects in Free Relatives: A Parameter of Core Grammar," in Adriana Belletti, Luciana Brandi and Luigi Rizzi (eds.), *Theory of Markedness in Generative Grammar*, 171-216, Scuola Normale Superiore, Pisa.
- Hasegawa, Hiroshi (1987) "Structural Properties of Comparative Constructions," *English Linguistics* 4, 126-143.
- Harbert, Wayne (1983) "On the Nature of the Matching Parameter," *The Linguistic Review* 2, 237-284.
- Ishii, Yasuo (1991) *Operators and Empty Categories in Japanese*, Ph.D dissertation, University of Connecticut.
- Izvorski, Roumyana (1995) "A Solution to the Subcomparative Paradox," *The Proceedings of WCCFL* 14, 203-219.
- Jackendoff, Ray (1971) "Gapping and Related Rules," *Linguistic Inquiry* 2, 21-36.
- Kandybowicz, Jason (2006) "Comp-Trace Effects and the Syntax-Phonology Interface," to appear in *The Proceedings of Chicago Linguistic Society* 42.
- Kennedy, Christopher (1999) *Projecting the Adjective: The Syntax and Semantics of Gradability and Comparison*, Garland, New York.
- Kennedy, Christopher (2002) "Comparative Deletion and Optimality in Syntax," *Natural Language and Linguistic Theory* 20, 553-621.

- Kikuchi, Akira (1987) "Comparative Deletion in Japanese," ms., Yamagata University.
- Lechner, Winfried (2004) *Ellipsis in Comparatives*, Mouton de Gruyter, Berlin, New York.
- Lobeck, Anne (1995) *Ellipsis: Functional Heads, Licensing, and Identification*, Oxford University Press, Oxford.
- May, Robert (1985) *Logical Form: Its Structure and Derivation*, MIT Press, Cambridge, MA.
- Merchant, Jason (2001) *The Syntax of Silence: Sluicing, Islands, and the Theory of Ellipsis*, Oxford University Press, Oxford.
- Munn, Alan (1993) *Topics in the Syntax and Semantics of Coordinate Structures*, Doctoral Dissertation, University of Maryland.
- Pinkham, Jesse (1982) *The Formation of Comparative Clauses in French and English*, Garland, New York.
- Pinkham, Jesse (1984) "On Comparative Ellipsis," *Linguistic Analysis* 13, 183-193.
- Postal, Paul M. (1998) *Three Investigations of Extraction*, MIT Press, Cambridge, MA.
- Ross, J Robert (1986) *Infinite Syntax!*, Ablex Publishing Incorporation, New Jersey.
- Sag, Ivan (1980) *Deletion and Logical Form*, Garland, New York.
- Sobin, Nicholas (1987) "The Variable Status of Comp-Trace Phenomena," *Natural Language and Linguistic Theory* 5, 33-60.
- von Stechow, Arnim (1984) "Comparing Semantic Theories of Comparison," *Journal of Semantics* 3, 1-77.
- Stump, Gregory T. (1981) "The Interpretation of Frequency Adjectives," *Linguistics and Philosophy* 5, 221-256.
- 吉本 真由美 (2007) 「空演算子と Left Branch Condition——比較構文の謎を解明する」 *JELS* 25, 295-304.
- Watanabe, Akira (2003) "Wh and operator constructions in Japanese," *Lingua* 113, 519-558.

(大学院博士後期課程学生)

SUMMARY

On the Coordinate Structure in Comparative Constructions

Mayumi YOSHIMOTO

This paper investigates the syntactic structure of two types of clausal comparatives — ‘Ordinary’ Comparatives and Subcomparatives. Ordinary comparatives (OC) are expressions of comparison such as (1), which compare two quantities of the same sort (the number of men).

(1) John invited more men than Bill invited.

On the other hand, Subcomparatives (SC) compare quantities of different sorts (comparison between the number of men and that of women).

(2) John invited more men than Bill invited women.

In this paper I will argue that their comparative clauses and main clauses are in coordinate structures, so *than* in clausal comparatives like (1) and (2) is a coordinator. Furthermore, following Yoshimoto (2007), I will propose that in SC’s comparative clause the DegP moves from a VP-adjoined position and in OC’s comparative clause the entire compared constituent moves from an argument position. Under these analyses, I will show the syntactic structure of the main clause and comparative clause. The structure proposed here will be evidenced by examples that were pointed out in a previous analysis of constituent structure in comparative constructions (Hasegawa (1987)).

キーワード：(Sub)Comparatives, 等位接続, 空演算子移動, 自由関係詞節